

エスペラント語 ミニ講座 (資料)

1 読み方の練習

いわゆる「ローマ字よみ」と考えてかまいません。アクセントは後ろから2番目の母音にあります。

- nova amiko 新しい友人 bela kanto 美しい歌 nova jaro 新しい年

エスペラントの j は 英語の y に相当します。(たとえば「はい」は ^{イエス}jes です。)

- granda ŝoko 大きな衝撃 somera lernejo 夏の学校 freŝa pano 新鮮なパン

ŝ, ĉ のように 帽子のついた文字があるのは、一つの音を sh とか ch のように 2 文字で表すのを避けるためです。sa si su se so が「サ・スイ・ス・セ・ソ」、ŝa ŝi ŝu ŝe ŝo が「シャ・シ・シュ・シェ・ショ」になります。

- paca nokto 平和な夜 necesa laboro 必要な労働 dolĉa kuko 甘いお菓子

c は「ツ」(発音記号だと [ts]) の音です。[s] とは違います。(余談: 英語の「ネセサリー」という発音から necessary という つづりを復元できますか?) それに対して、ĉ は「チュ」とか「チェ」のような音になります。

- malnova amiko 古い友人 malgranda hundo 小さな犬 malfreŝa fiŝo 鮮度の落ちた魚

g は 英語でいうと *Let's go* とか *green* の場合と同じ。

- ruĝa ĉemizo 赤いシャツ dolĉa kiso 甘い口づけ galaksia fervojo 銀河の鉄道

ĝ は 英語でいうと *gentleman* の g です。エスペラントでは g と ĝ を 帽子の有無で区別します(この点は日本語の濁点に似ていると言えなくもない)。

- novaj amikoj 新しい友人たち multaj kukoj 多数のお菓子 lernemaj studentoj 勉強熱心な学生たち

j は「イ」と読みますが、独立の母音としては勘定されないことに注意して下さい。

2 エスペラントの例文

- サルートン Saluton! こんにちは ダンコン Dankon! ありがとう キエ エスタス ネットセーヨ Kie estas necesejo? お手洗いはどこですか?

どの言語でも、まさきに覚えておくべき表現はこれでしょう。ついでに “Pardonon!” (ごめんなさい) も覚えておくといいかもしれません。

- ジス レヴィード Ĝis revido! じゃあまたね! ジス モルガウ Ĝis morgaŭ! またあした!

“Ĝis revido” の文字通りの意味は「再び (re-) 見る (vido) まで (ĝis)」です。(なんだか中国語の「再見!」みたいですね。)

- ミ エスタス ストゥデント Mi estas studento. 私は学生です。 ミ レルナス エスペラントン Mi lernas Esperanton. 私はエスペラントを学んでいます。

-as は 現在形の動詞であることを示す語尾です。(ちなみに 過去は -is、未来は -os で示します。) また、-n は 日本語の「～を」に相当します。

- フンド モルディス ホーモン Hundo mordis homon. 犬が人を噛んだ。 フンドン モルディス ホーモ Hundon mordis homo. 犬を人が噛んだ。

-n や -is があるおかげで、動詞や 目的語の位置は かなり自由です。たとえば 2 番めの文は、“Homo mordis hundon.” “Hundon homo mordis.” “Mordis hundon homo.” などのように言っても良いのです。

- ミ アーマス ヴィン Mi amas vin. 私はあなたを愛している。 シ ネ アーマス リン Si ne amas lin. 彼女は彼を愛していない。

ne で 否定をあらわします。また、1 番目の文は “Mi vin amas.” のようにも言えます。

- ボナン ノクトン Bonan nokton! 良い夜を (おやすみなさい) フェリーチャン ノヴァーロン Feliĉan Nov-jaron! 幸福な新年を (あけましておめでとう/良いお年を)

形容詞にも -n がつくことに 注意して下さい。(なお、挨拶のことばには、このように -n で表現されるものが多い。)

- シ カンティス ベーレ Ŝi kantis bele. 彼女は美しく歌った。 ニ レルノス ムルテ Ni lernos multe. 私たちはたくさん学ぶだろう。

bele 「美しく」、multe 「多く」。

3 品詞語尾

エスペラントでは、単語の文法的機能は以下のような語尾によって表されます。これさえ覚えてしまえば、もう複雑な活用に頭を悩ます必要はありません。

動詞 (述語動詞) を示すもの:

- -as (現在形) : Mi *amas* vin. 私はあなたを愛している。
- -is (過去形) : Mi *amis* vin. 私はあなたを愛した (愛していた)。
- -os (未来形) : Mi *amos* vin. 私はあなたを愛するだろう。
- -us (仮定法) : Se *ŝi amus* lin! 彼女が彼を愛していたらよかったのに。
- -u (意思法) : *Amu* viajn mal-amikojn. あなたの敵を愛しなさい。

不定詞 (動詞の不定法):

- -i : *Vivi estas ami*. 生きることは愛すること。

名詞:

- -o : *amo* 愛 *studentoj* 学生たち

修飾語を作るもの:

- -a (形容詞) [名詞を修飾する] : *bela kanto* 美しい歌 *Vi estas bela*. あなたは美しい。
- -e (副詞) [名詞以外の語を修飾する] : *kantis bele* 美しく歌った

その他:

- -j (複数) : *multaj kukoj* 多数のお菓子
- -n (対格) [～を] : *belan kanton* 美しい歌を *multajn kukojn* 多数のお菓子を

4 組合せの法則

エスペラントの単語は、ちょうど日本語における漢字語のように、いくつかのパーツの組みあわせでできています。(ある統計によると、500程度のパーツを知っていれば、会話の8割は理解できるそうです。)

例 1: 数詞

	漢字	エスペラント	英語
1	一	unu	one
2	二	du	two
3	三	tri	three
10	十	dek	ten
12	十二	dek du	twelve (ten two ではない)
20	二十	dudek	twenty (twoten ではない)

例 2: 「～する」型の表現

- telefono – telefonas (電話/電話する)
- kiso – kisas (口づけ/口づけする)
- danko – dankas (感謝/感謝する)
- revido – revidas (再会/再会する)
- amo – amas (愛/愛する)
- laboro – laboras (労働/はたらく)
- kanto – kantas (歌/歌う)
- studento – studentas (学生/学生する)

5 接頭辞・接尾辞

エスペラントでは接頭辞や接尾辞を縦横に駆使することができるので、記憶や思考の負担を減らしながら豊かな表現をすることが出来ます。(記憶量は普通の言語の5分の1ですむ、という研究結果があるそうです。)

- mal- (意味を逆にする) :
nova (新しい) → *malnova* (古い)
bela (美しい) → *malbela* (みにくい)
granda (大きい) → *malgranda* (小さい)
amas (愛する) → *malamas* (憎む)
paco (平和) → *malpaco* (あらそい)
- -ist- (職業などで常時たずさわっている人) :
piano (ピアノ) → *pianisto* (ピアニスト)

kuiras (料理する) → *kuiristo* (料理人)
laboras (働く) → *laboristo* (労働者)
scienco (科学) → *sciencisto* (科学者)
matematiko (数学) → *matematikisto* (数学者)
kantas (歌う) → *kantisto* (歌手)
ofico (事務) → *oficisto* (事務員)

● -ej- (ある目的のための場所) :

lernas (学ぶ) → *lernejo* (学校)
kuiras (料理する) → *kuirejo* (厨房)
manĝas (食べる) → *manĝejo* (食堂)
kafo (コーヒー) → *kafejo* (喫茶店)
ofico (事務) → *oficejo* (事務所)
laboras (働く) → *laborejo* (仕事場)
kuko (菓子) → *kukejo* (菓子屋)

● -em- (～したがる傾向の) :

manĝas (食べる) → *manĝema* (食いしんぼうの)
lernas (学ぶ) → *lernema* (勉強熱心な)
pardonas (許す) → *pardonema* (寛大な)
laboras (働く) → *laborema* (仕事熱心な)
kantas (歌う) → *kantema* (歌うのが好きな)
kafo (コーヒー) → *kafema* (コーヒーばかり飲んでいる)
telefonas (電話する) → *telefonema* (電話魔の)

6 まとめ

エスペラントでは、なにかひとつ規則を覚えると、その規則を広い範囲に自由に応用することができます。このことは、エスペラントのいわゆる「規則性」は表現力を低めるものではなく、むしろこれを高めるものであることを示しています。なぜなら、まさにこの規則性のおかげで、安心していろいろな表現を使うことができるからです。(たとえば *pianisto*, *kuiristo*, *laboristo*, *sciencisto*, *matematikisto*, *kantisto*, *oficisto* に対応する英語をどれだけ自信を持って言えますか? 不規則性は、非ネイティブにとってはこのように自信を失わせる要因であり、結果的に表現にブレーキをかけることとなります。)

もちろん、エスペラントといえども単語を覚える労力は必要ですが、言語の構造の面では、記憶の負担を最小限にし、なおかつ豊かな表現を生み出せるようにさまざまな工夫がされているということを実感していただければ幸いです。どうもありがとうございました。

1994年11月23日
京都大学エスペラント語研究会
大信田 丈志